

令和3年度 大喜福社会 喜楽苑

活動報告

コロナ禍で催し物や面会が制限され、利用者や家族に迷惑をお掛けして、早2年が経過した。逆風の中、職員はアイデアを練り出し、出来る範囲で行事等を企画、実施している。

教育面においては、各種研修の中止や延期が相次ぎ、職員の技術向上・成長に影響が出ているが、今年度においてはWEB研修が主流となり、今後は標準となりつつある。今後も機会があれば積極的な参加をしていきたい。

人材確保対策では、就職説明会や福祉体験教室、学校訪問等が中止される中、アピールの機会を模索し今年度は市役所にてPRビデオの放映を試みた。

経営面では3/4半期まで順調であったが、1月に恐れていたクラスターが発生した。準備は整え職員の感染予防も徹底していたつもりであったが、予想を超えた感染力で利用者・職員に多数の陽性者を出す結果となった。当然経営への影響も大きく、資金収支も前年度より数字を落とした。改めて感染症予防の重要性を認識させられた一年であった。

目標に対する評価

1、積極的に笑顔で挨拶をする。

ストレスが溜まりやすい時代背景の中、コロナ禍が追い打ちをかけ厳しい日々が続く中、職員個々が努力を続け、笑顔での挨拶は定着しつつある。今後も職員の健康面に留意し、自然と笑顔になる職場環境を整えたい。

2、多職種連携により入院者ゼロを目指す。

見守りセンサーの導入や歯科衛生士の増員などにより、入院者は減る傾向にあった。クラスター発生後に体力を落とす利用者が増え、入院となるケースが多くなり残念な結果となった。

3、地域との連携により健康寿命日本一の地域づくり

制限がある中、今年度は健康セミナーと称し地域の公民館に出向き、出張講演を実施した。予定されていたセミナーがコロナの影響で中止となることがあり残念であった。次年度以降も老人クラブや、地域の集会に出向き、健康セミナーの実施を継続していきたい。

令和3年度 社会福祉法人大喜福社会 喜楽苑 事業報告

【 特別養護老人ホーム 喜楽苑 従来型 】

”心地よい声掛けをしよう“

- ・誰に対しても心地よい声掛けを心掛ける
～激しい言葉・攻めるような言葉を入居者に対して使わない～
 - ・本人の力を活用した介護技術の向上
～入居者ご本人の力を活用した介護技術の向上～
- 上半期、職員の言葉遣いで指導を受けたことがあり、目標を達成したとは言えない部分もあるが、その都度指導を行い徐々に改善している。不適切な言葉遣いは心理的虐待にあたるので、継続して指導に努めたい。

【 特別養護老人ホーム 喜楽苑 ユニット 】

1 積極的に笑顔でコミュニケーション

挨拶はそれぞれ行えている。仕事が円滑に行えるようインカムを使用し、声を掛け合う場面も増えてきた。しかしコミュニケーションを取るのが苦手な職員もいると感じている。チェック表で振り返りを行うことで、自分の言動を意識する機会がもてた。

2 危険予知力を身につけ、事故予防

上半期は骨折入院や怪我での病院受診等、大きな事故が続いた。同じ事故を起こさないよう事故検証し対策を行った。下半期は病院受診に繋がるような大きな事故もなく安堵している。職員の危機管理能力を高めるべく、詳細な事故検証を行い、今後も事故防止に努めていく。

3 丁寧な介護で、入居者の満足度を高めよう！

丁寧な介護・言葉かけ・丁寧な整容等は以前に比べると意識して行えている。だが、細かいところまで気付く職員と気にもならない職員がいるのも現状であり、意識の違いを感じる。基本的なことであり、会議などで何度も言っていく必要がある。

【 医務室 】

「多職種と連携し入院者ゼロを目指す」

- 介護職と情報を共有し異常の早期発見・対応を行う
- 服薬事故をゼロにする
- 笑顔で業務、報・連・相の徹底でチームワークを強化する

入院者が13名と多く、特に骨折による入院が5名おられた。

見守り体制や移乗方法の検討など、介護職との連携を強化する必要がある。また、コロナ感染症の発生により入居者の健康維持に大きなダメージを与える結果となった。入居者を感染症から守れなかったことは大きな反省点であり次年度に向けてさらなる感染予防、感染拡大防止対策の強化が必要と考える。

厳しい業務の中で、お互いに声を掛け合いながら、他部署の協力も得て乗り切ることができたことは良かった点である。

服薬事故に関しては大きな事故もなくほぼ達成できた。しかし細かな部分でのヒヤリハットがあり、今後も意識付けと職員同士の声掛けを継続する。

【 調理 】

1 満足度の高い食事提供に努める。

委託業者の森永食研と報告、連絡、相談がうまくできる体制が構築し、毎朝のミーティングをしっかりと行うことができた。そのため異物混入や事故を少なくすることができ安全な食事提供ができた。

11月より森永食研に食事同様おやつへの委託をした。要望や改善を伝えながら入居者が楽しみにしてもらえようようにしていきたい。

2 入居者全員へ丁寧な栄養ケアを実施する。

低栄養者に対し食事の観察（ミールランド）を行うことで、多職種と共同して入居者の摂取状況や栄養状態の変化を早期に把握し、対応することができた。しかし、コロナ感染体制時には必要栄養量が提供できなかった。今後は褥瘡や機能低下を予防できるよう介入していきたい。

【 事務室 】

1 積極的に明るい笑顔で挨拶

利用者やご家族、地域の方との関わりを大切にし、明るい挨拶を心がけ積極的な対応に努めてきた。時折、来客を待たせてしまうこともあり、今後は声を掛け合ったりして改善していきたい。今後も笑顔を忘れず、相手の気持ちを考え接していきたい。

2 心も体も健康に

気候の良い頃は心地よく歩き、気分転換等できたが継続することは難しかった。今後もストレスを溜めないように、健康増進のため時間を見つけてウォーキング等を行いたい。また勤務表に有給休暇を組み込むことで、計画的に取得できた。

【 多機能ホームきらくの湯 】

「家族も安心在宅生活」

1 自宅で温かい食事ができるよう食支援に努める。

なかなか取り組めなかった在宅の調理について、職員の意識も変わり、買い物・調理と食支援も充実してきた。しかし、まだ、サービス内容が統一できていない事もある。

2 季節を感じながら過ごせるよう、行事やレクに取り組む。

行事やレクについて、youtubeの接続で口腔体操、リハ（脳トレ等）取り組みやすく、利用者・職員と楽しみながら行うことができた。また、できたておやつや制作では、季節のおやつや季節の山菜等使った調理、提供で季節を感じて過ごすことができた。

3 多職種で情報を共有、状態の悪化を予防し在宅生活を支える。

多職種（看護師、ケアマネ、介護福祉士）訪問看護や福祉用具、主治医と必要時には連絡を取り、体調不良や精神不安定時には病院受診、服薬調整等在宅生活の基本ができています。しかし、服薬ミスも数件あり、確認不足や情報の共有、ちょっとした事で事故につながってしまった。

【 デイサービスセンター喜楽苑 】

1 相手の立場になり優先順位と安全を考え行動する。

利用者よりも業務や自身の事が優先になってしまい配慮不足があったが常に一人ひとりが安全、安心を意識し責任感をもって行動する事ができた。今後も相手の気持ちを配慮し相手が「何を望んでいるのか」思いやりを持って深く考え傾聴・寄り添う事ができるように努める。

2 各種感染症やケアの知識向上に努める。

～利用者や家族との繋がりを深め体調不良等の早期発見をする～

感染症対策としては、送迎時の確認は常に意識し職員全員が気を配り、必要な対応が迅速にできた。家族からの情報を把握し体調管理に努めるように努力した。何事でも振り返りを行う事により、情報の分析や防止対策検討を行い、個々のスキル向上と体制づくりの重要性を再認識し対応に繋げていきたい。

【 ホームヘルパーステーション喜楽苑 】

1 笑顔で挨拶をしてコミュニケーションをとる。

○利用者に寄り添い思いを受け止めて何でも話せる関係を作る。

コロナの陽性者が増加するにつれて利用者とソーシャルディスタンスをとり、会話も少なくなった時期もあった。調理や掃除をしながら距離をとって冗談を言ったりして笑える関係性はできた。

2 多職種と連携し利用者を支える。

○利用者ができる事の継続と重症化の防止に努めると共に、家族に助言をして理解を得る

家族や多職種とは個々の連絡ノートに様子を記入したり電話連絡をして、情報共有して支援はできたが、1ヶ月近く体調不良や骨折で入院した利用者も5名いた。

内3名は退院して在宅で過ごせるようになった。

3 体を動かしてストレスを溜めないようにする。

○職員が各自で健康に過ごせるよう運動をしたり気転換をする。

体調不良のため休職、退職者が2名いた。運動には取り組めなかったが、菜園や花を植えたり、音楽を聴いたりして自宅で気分転換はできた。コロナ禍で制限がありストレスを感じた。

【 介護保険サービスセンター喜楽苑 】

専門性の向上に努める

○研修参加や情報共有を行い知識の向上を図る。

・新型コロナウイルス感染症のため、研修はオンラインでの開催が主になっているなか、主任ケアマネスキルアップ研修会や事例検討会等定期的な研修会への参加継続や必要性の高い研修会への参加ができ専門知識向上に取り組むことができた。

・定期会議内で研修の復命を受け内容の共有や、週1回開催している情報共有会議で情報の共有、連携を行うことができた。

○互いのストレスサインに気づき支え合える関係性を築く。

・日頃からコミュニケーションを取ることができ精神的に支え合うことができた。

【 日田市南部地域包括支援センター 】

1 「笑顔で挨拶」を通し、相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける

コロナ禍訪問や交流の機会は少なくなったが、笑顔で挨拶を心掛けた。

また、電話対応も増えた事から、電話を通して相談しやすいように声掛けや間の取り方を意識して対応した。

2 「健康寿命日本一の地域づくり」へ向け、地域の方へ様々な情報を発信する介護予防を念頭に、講話やパンフレットを通し情報を発信した。

令和3年(2021年)度事業報告

	毎月開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会福祉法人 大喜福祉会		理事会	監事監査	理事会 評議員会(主任合同)	理事・評議員研修会					理事会			理事会
特別養護老人ホーム 喜楽苑	誕生日会			入居判定委員会	サービス相談委員会	夏祭り	敬老会 サービス相談委員会	ふるさと巡り 運動会 おとな先生	サービス相談委員会 ふるさと巡り	クリスマス会 入居判定委員会			
ユニット	誕生日会	春の桜まつり(お茶会)		入居判定委員会	サービス相談委員会 花火会	夏祭り	敬老会 サービス相談委員会 ふるさと巡り	運動会 入居判定委員会	サービス相談委員会 ふるさと巡り	入居判定委員会 忘年会			
医務室	体重測定	コロナワクチン接種 (入居者・職員)		入居者血液検査	入居者尿検査	入居者胸部レントゲン検査			インフルエンザ予防接種 (入居者・職員)	入居者血液検査	入居者尿検査 ワクチン追加接種 (入居者・職員)		
デイサービスセンター喜楽苑	誕生日会・できたておやつ 生きがいサロン・体重測定 運動教室・製作活動		鯉のぼり設営 園芸活動 バラフェア	屋外クッキング	そうめん流し	夏祭り	敬老会(ボランティア)	名所めぐり	紅葉見学 作品展参加	門松づくり お楽しみ会(クリスマス会)			野外活動(ひな祭り) 花見ウォーキング お茶会・展覧会
ホームヘルプステーション喜楽苑													
多機能ホーム「きららの湯」	買い物 できたておやつ 制作活動		運営推進会議 園芸活動	小規模ひた連絡会 園芸活動	園芸活動・野外活動 避難訓練(消火)	園芸活動 運営推進会議	苑内散歩	園芸活動 避難訓練(夜間想定) 地域ケア会議 小規模ひた連絡会	運営推進会議 紅葉狩り いつま小交流会 外出(買い物) 食事会	クリスマス会 地域行事参加 県・小規模ひた連絡会	野外活動(初詣)	小規模ひた連絡会	野外活動(花見) 運営推進会議
介護保険サービスセンター喜楽苑	ケアマネ会議・研修 主任スキルアップ研修 情報共有会議												他居宅合同事例 検討・勉強会
日田市南部地域包括支援センター	職種別会議 ケアマネ勉強会・相談会 主任ケアマネスキルアップ研修		地域ケア個別会議	ランチ合同会議				ランチ合同会議					地域ケア個別会議 SOS行方不明者捜索模 擬訓練
給食	できたておやつ	桜見行事食	端午の節句行事食 母の日行事食	父の日行事食	七夕行事食	海の日行事食	敬老会(お弁当)	ハロウィン行事食	文化の日行事食	クリスマス会	おせち料理(お弁当)	節分行事食	桃の節句行事食
委員会会議等	リーダー会議 各部署職員会議 各種委員会・苑内研修												新採用就職説明会
施設外研修	主な研修を抜粋		ケアマネ更新研修	給食担当職員研修		認知症キャラバン隊養成研修 2040委員会	虐待防止への取組研修 介護事業経営セミナー 口腔ケア研修	安全運転管理者講習 認知症介護実践者研修 認知症介護実践者研修 メンタルヘルス研修	人材の育成方法研修 短期集中予防事業研修	プロ意識醸成研修 虐待防止とリスクマネジメント	アンカーマネジメント研修 サービス等計画作成担当者研修		
その他	口腔ケア指導 喫茶きら(月2回)	施設内新人職員研修 職員面談 喜楽苑だより発行	家族会役員会	ブルーベリー収穫祭 消防点検 地域ふれあい懇談会	喜楽苑だより発行 水質検査	職員健康診断(8/3) 貯水槽清掃 コロナ感染	上半期部署会議 健康セミナー	献血 職員中間面接評価		水質検査	消防点検 喜楽苑だより発行 コロナ感染		職員最終面接評価 浄化槽清掃・水質検査 下半期部署会議 献血 夜勤業務者検診(3/15)